

第5章 本ビジョンの考え方

(1) 教育目標と基本理念

本市は、第8次総合計画において、目指すまちの姿を「花と緑と清流のまち 笑顔あふれる やさしいまち」と定め、豊かな自然環境や良質な農作物などの魅力を持つとともに、市民と行政が共創し、多様性にあふれ、活気あるまちづくりを目指しています。この目指すまちの姿の実現のため、教育の分野では下記の鹿沼市教育目標に向けて教育行政を推進しています。

【鹿沼市教育目標】

- 1 人間性豊かで、思いやりのある市民を育む
- 2 教養を高め、多様な価値観を認め合う市民を育む
- 3 郷土を知り、豊かな郷土づくりに励む市民を育む
- 4 人権を尊び、平和な社会を築く市民を育む
- 5 自然を愛し、環境を守る市民を育む

本ビジョンは、この鹿沼市教育目標の達成を目指して策定するものであり、本ビジョンを推進するにあたり、基本となる理念が「学びから 未来を拓く ひとづくり」です。

この理念は、鹿沼市教育大綱が掲げる基本理念と等しくするものであり、「学校」・「家庭」・「地域」が、それぞれの役割を認識しながら連携を深めて互いに協力し合い、豊かな未来を切り拓く子どもたちを育てるための教育を推進していくことを目的としています。

この理念を基にしながら、「学校教育」「教育環境」「生涯学習・青少年育成・文化振興」「スポーツ」に係る4つの分野において、下記のとおり基本目標を設定し、それぞれの施策を推進することにより、鹿沼市教育目標の達成を目指します。

【基本理念】

学びから 未来を拓く ひとづくり

【基本目標】

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 基本目標 1 | 未来を拓く学校教育の推進
(学校教育) |
| 基本目標 2 | 次代につなぐ教育環境の充実
(教育環境) |
| 基本目標 3 | 地域とともに高める学びと協働活動
(生涯学習・青少年育成・文化振興) |
| 基本目標 4 | スポーツでつくる健康都市の推進
(スポーツ) |

【イメージ図】



※鹿沼市の教育を大樹に見立て、「学校」・「家庭」・「地域」が基礎を支える根となり、「学びから 未来を拓く ひとづくり」の基本理念を幹として、「学校教育」「教育環境」「生涯学習・青少年育成・文化振興」「スポーツ」に係る各施策の実を結ぶことで、教育目標に向けて成長を続けていくというイメージ

(2) 本ビジョンの推進にあたって

これからの教育に求められるもの

① 正解のない問題に対する納得解

② 多様な他者との協働

③ 幸せな人生の創造

これからの教育においては、どこかに正しい決められた答えがあって、それを探せばいい、ということではなくて、決まりきった正解のない問題に対して、自分とは違う考えの人たちとも協力して、多くの人が納得できるような「納得解」というものを見だし、幸せな人生を築き上げていくことが大切です。そのために必要な力（資質・能力）を教育を通して育てていきます。

これからの時代に求められる資質・能力

これからの時代に必要な資質・能力として、中教審答申（令和3年1月26日）では、次の2点があげられています。

○ 次代を切り拓く子供たちに求められる資質・能力

- ① 文章の意味を正確に理解する読解力
- ② 教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力
- ③ 対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し新しい解や納得解を生み出す力

○ どのような時代であっても変わらず重要な資質・能力

- ・豊かな情操 ・自己肯定感・自己有用感 ・他者への思いやり
- ・対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力
- ・困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力 など

グローバル化や情報化への対応など、これからの時代を切り拓く子どもたちには、文章を正確に読み取る読解力や情報活用能力、自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて新しい解や納得解を生み出す力等が求められます。

それと同時に、いつの時代でも大切にされなければならないものがあります。自分を大切に
する心、他人と協調し他人を思いやる心、優しさや感謝の心などの豊かな人間性です。

育成を目指す資質・能力

新学習指導要領では、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養が、育成を目指す資質・能力の三つの柱として重視されていますが、自己肯定感や自尊感情、困難を乗り越え成し遂げる力、互いのよさを生かして他人と協働する態度、優しさや思いやりなどを育成すること（これらは「非認知能力」と呼ばれています）に、特に力を入れて取り組んでいきます。

また、教育ビジョン策定のためのアンケート調査においても、基礎的な学力とともにコミュニケーション（人間関係構築）能力、思いやり、忍耐力、あきらめない心などを重視する割合が高くなっています。

「非認知能力」とは、次のような数値では測れない力のことで、三つの柱の「学びに向かう力・人間性等」に当たります。

○自分と向き合い自分を高める力 （自分を大切に、感情のコントロールができ、自分を高めようとする力）

- ・自己肯定感 ・自尊感情 ・自制心 ・忍耐力 ・やり抜く力 ・自律心
- ・向上心 ・レジリエンス（回復力） など

○他者とつながる力 （他者との関係を築き、他の人とうまくやっていく力）

- ・共感性 ・優しさ ・思いやり ・協調性 ・協働する力
- ・コミュニケーション力 など

推進にあたって

本教育ビジョン推進にあたっては、「どんな資質・能力を育成するのか」「何のためにそれをやるのか」ということを重視して取り組んでいきます。何をやるか、どうやってうまくやるかというのは、もちろんとても大切ですが、その前に、「何のためにそれをやるのか？」「なぜそれをやるのか？」そして、「その教育活動を通して子どもたちにどんな力、資質・能力を身に付けさせるのか？」を確認しながら推進していきます。また、「何かをやる」にあたっては、目的を意識し、どんな資質・能力を育成するのかということも重視して取り組んでいきます。

教育というのは、様々な人の思い、願い、支え、協力で成り立っています。信頼関係で成り立っているのが、教育という営みです。また、教育は、毎日の地道な当たり前の実践の積み重ねによってこそ実現されるものです。学校・家庭・地域が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚した上で、相互の信頼関係を大切に、連携・協働する中で、「沢には沢の文化」に象徴される、地域固有の歴史や文化・風土を尊重しながら、大人も子どもも学び続ける生涯学習社会や地域の活性化を目指し、生涯にわたって学び続ける姿勢を大切にしていきます。